

YAMAGATA GLOBAL FAMILY やまがた地球家族

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL. 2



人々に愛される楽団を 佐藤行和さん（16年度・シニア海外ボランティア・ホンジュラス）

当地に来て7ヶ月にもなりました。国立交響楽団にて仕事を始めて1ヵ月後に、突然全楽員の解雇、楽団の閉鎖と言う予想もできないことが起こりました。急遽、国立吹奏楽団に配属替えを受けて現在に至っています。

ここは108年の伝統を誇るものの、1998年にハリケーンのため建物・楽器・楽譜の全てを失い、現在

再建途上です。演奏技術の向上・レパートリーの拡充を図りながら、
・劇場コンサート（向上する楽団）、
・公園コンサート（奉仕する楽団）、
・学校コンサート（教育する楽団）を定期的に開くことを当面の行動目標とし、究極人々から愛される、人々の心の支えになれる楽団をめざして、楽員ととって仲良く頑張っています。



↑ハリケーン被害を受けた音楽学校。中庭にトタンを張った下で、合奏の授業。

↙左上：旧市街のセントラル公園で開催したコンサート。
↗右上：カンタラナス（「蛙の合唱」の意、いい名前！）という小さな町の公園で。



グローカリズムを基本に

昨年10月の設立以来、国際協力のつどいや帰国報告会、隊員の壮行会、募集説明会などを通して会の認知と浸透を図っているところです。

当会では、青年海外協力隊などJICAボランティアへの理解と支援はもちろのこと「地球規模で考え、地域で行動する」というグローカリズムを基本に、地域性を生かした草の根レベルの国際協力の推進や地域社会における国際理解および開発教育の推進をテーマに掲げ、やまがた

地球家族ならではの独自性のある活動を目指しています。

17年度は講演会やワークショップなども加え、活動の充実と「小さなハートプロジェクト」の検討などで

協力隊を支援するやまがた地球家族の会
事務局長 富樫 透

活動の方向性をより明確にしていきたいと思います。また、会員ニーズに応えられる運営に努力しますので、今後とも皆様のご意見・ご理解・ご協力・参画をよろしくお願いいたします。

【平成16年度 事業報告】

期日	事業	場所	参加者
10/2	設立総会	国際村	100名
10/22	シニアボランティア壮行会	国際村	10名
11/1	機関誌『やまがた地球家族』第1号発行		
11/25	16年度2次隊壮行会	県庁	20名
12/19	やまがた国際協力のつどい	AIRY	80名
2/27	ボランティア家族懇談会および帰国報告会	遊学館	60名
3/26	16年度3次隊壮行会	県庁	10名

国際協力の現場を知る ～帰国報告会・家族懇談会～

平成17年2月27日の午前、JICA（国際協力機構）ボランティア帰国報告会を、山形市の遊学館で開催しました。山形県から青年海外協力隊や国際緊急援助隊に参加したボランティアOG・OB3名が現地での体験を発表した後、聴衆と活発な質疑を行ないました。

午後からは派遣中のボランティアのご家族の懇談会。派遣地域ごとに、その地域に派遣経験のあるOG・OBを交えて情報交換・交流しました。

また、16年度《JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト》で審査員特別賞に輝いた植松未知さんに受賞エッセイを朗読発表して頂き、図書券など記念品を贈呈しました。



受賞エッセイ（全文）

『世界中に生命（いのち）の音を』

山形大学教育学部附属中学校 三年

植松 未知

私の前に、大きな緑色のタイのチャオプラヤ川が広がる。水は動かず、止まったまま。澱んだ水にはゴミが浮く。透き通った水が流れるのを「川」だと思い込んでいた私。あまりに違う、信じられない光景だった。

白神山地のブナのマザーツリーを訪ねたことがある。幹に耳をあてると、微かにこっくんこっくんという水を吸い上げる音が聞こえた。天

然のダムといわれるブナが生み出す澄んだ水は格別おいしい。湧き出るあの冷たい澄んだ水が、私の水のイメージの原点だ。

ここタイでは、それはとうてい望めない。透き通った水が見当たらない。水はミネラルウォーターを飲むことと何度も注意された。この川を見れば、その注意ももっともだ。でも……。ここに住んでいる人はどんな水を飲んでいるのだろう。あの子は？

タイ郊外でふと目が合ったその男の子は、バスの中の私を遠くから真っ直ぐに見つめていた。裸足の白い足の裏、細い腕。黒い瞳が瞬きもせず私を見つめていたのだ。5歳位のあの小さい男の子は何を考え、何を求めていたのだろう。どうして私を見ていたのだろう。帰国してもその目を忘れられなかった。

そんな時カンボジアで井戸を掘り続けている内田弘慈さんの話を知った。泥水で体を壊す子どもを見て、一人で井戸掘りを始めた内田さん。透き通った地下水は瞬く間に子ども達を救う。生命を守るのは水だと思った。水が私の胸にしみ込んできた。あの男の子にも透き通った水をあげたい。活気をあげたい。

フィリピンで暮らしていた友達が言う。

「喫茶店で水がただで出てきて驚いた。水汲みは子どもの仕事だった。水は貴重品だよ。」私は返す言葉がなくて恥ずかしかった。

タイ、カンボジアだけではない。世界中に水に苦しむ人がいるのだ。戦争をしているアフガニスタン、イラク、そして……。一体どのくらいの人々が？

その疑問は、図書館で偶然手にし

たパンフレットが解決してくれた。ハンガーフリーのパンフレットに、世界で安全な水を飲めない人が1億人もいと書かれていたのである。あまりに膨大で、想像を超える数だった。水問題は緊迫している。私が知らなかっただけ……。泥水を口にして暮らす人達がいる一方、私のように透き通った水を無駄に使っている人がある現実を真剣に考えなければならぬ。

いつでも手に入る、味のない水。あつて当たり前の水。でもそれではいけない。マザーツリーを抱えた時、こっくんこっくん……。水の鼓動を感じたことを思い出した。水の音は生命の源の音。世界中に生命の音が生き生きと響く日が来てほしい。

当たり前と思わず、なぜ、どうしてと自分に、世界に問いかけなければ。そして、今起きていることをしっかりと見つめていきたい。（了）

参加者の声

* 「帰国報告会」参加者から

知人の娘さんがメキシコに派遣中なので興味を持ちました。一口にJICA ボランティアといっても、様々な世代・職種・派遣先の人がいってビックリしました。せっかくの貴重な体験談なので、もっと多くの中学生高校生などにも聞いてほしいですね。

* 「ボランティア家族連絡会」

参加者から

息子がホンジュラスに派遣中です。地元協力隊OBが少ないので、少しでも情報が欲しいと思い、参加しました。協力隊の募集や派遣隊員の現地での活動などについて、県内でもっとPRして頂きたいです。

インタビュー OG・OBに訊け！

この日、帰国報告した3名の方々に、派遣までの経緯や現地での活動内容などについてお聞きしました。

(1) 応募／出動の経緯 (2) 活動内容 (3) 現地の様子 (4) 困難 (5) 成果 (6) ボランティア志望者へのメッセージ

半田奈央美さん (14年度・青年海外協力隊2次隊・ガーナ)

(1)…小学生の卒業アルバムに「将来の夢＝協力隊」と記していた！東京の建築設計事務所で勤務した後、応募。(2)…国立短期大学工学部家具デザイン科で、平均30歳の生徒50人を指導。(3)…ガーナの人々は陽気で平和主義。派遣先の学校では3代目の協力隊なので、活動基盤が出来ていた。(4)…雨が降ったら大半の生徒が欠席！デザインという概念が定着しておらず、固定観念が強い。計算力不足で「考える力」が育っていない。自分の英語力不足でコミュニケーションに苦労した。(5)…ブレインストーミングなど授業内容を工夫。デザインの面白さを理解し、家具作りに反映させていく基礎ができた。(6)…自分のように英語が苦手でも、現地に行けばなんとかなる！恐れずに挑戦してほしい。



鈴木圭子さん (13年度・日系社会青年ボランティア・ボリビア)

(1)…大学で移民問題を専攻。東京の旅行会社に勤務後、応募。(2)…1955年移住開始の日系社会「サンファン地区」自治機関に配属され、日本語文書作成や行事運営などを支援。(3)…地球の裏側に、言葉・習慣など「古き良き日本」があった！長崎からの移住者が多く「サンファン弁」と呼ばれる九州なまりが身に付いた。(4)…全員が親戚のような地区で、国内以上に日本的な気遣いが必要。(5)…広報誌取材などで住民とのふれあいを深めつつ、毎年恒例のお祭りがより円滑に運営できるようマニュアル化 etc.。(6)…自分のように運転免許くらいしか資格を持っていない「普通の人」でも、派遣のチャンスはある！

渡部直人さん (17年1月「インドネシア地震／津波災害に係る国際緊急援助隊医療チーム」医療調整員として出動)

(1)…「医療調整員」スペシャリストとして20年前から登録しており、実際の出動は今回が初めて。H16年12月30日、政府から打診のFAX→H17年元旦朝、成田出発→2日現地入り。(2)…医師による診察前に患者の優先順位を判断、カルテ作成など。(3)…自分や家族も被災した日本留学経験者が、通訳から車の手配まで自発的に協力してくれた！(4)…誘拐などの危険があり、厳重に警備。暑くて湿度が高いため、隊員の健康管理に留意。(5)…医療環境崩壊の中で補完的に機能し、9日間で1400人以上の人を診察・治療。治療途中の人を2次隊→自衛隊に引き継ぎ。(6)…JICAボランティアOBは経験と語学力だけでも医療調整員候補。医師・看護師・薬剤師は、語学力がなくても歓迎！



<寄稿> 青年海外協力隊募集の現状 青年海外協力協会 (JOCA) 相馬克正さん

青年海外協力隊の事業は政府援助の一環として40年も続けられており、これまで派遣されたOG・OBの数も2万5千名以上に上ります。

しかし近年の派遣実数は予定派遣数に届かない状況が生じています。一方、最近のODA予算の減少は募

集活動にも影響を及ぼしており、かつては県内3ヶ所で行われていた派遣希望者対象の説明会が、現在は山形市のみの開催となっています。

そこで協力隊OG・OBの集まりである(社)青年海外協力協会では募集活動のお手伝いを始めました。

今回の春募集ではJICA山形デスクとやまがた地球家族の会のご協力を得て、米沢市と鶴岡市で協力隊募集説明・相談会を開催することが出来ました。

今後とも、県民の皆さんのご理解とご支援をお願い致します。

～現地レポート～

山口考彦さん

(15年度・青年海外協力隊2次隊・パラオ)
平成15年12月からパラオのペラウ国立博物館で文化財保護の活動をさせて頂いています。「ペラウ」というのはパラオ語でのこの地の通称です。パラオには現在でも独自の言語が一般に使われており、ほとんどの国民が英語を得意とします。それだけではなく、パラオのご年配の人たちはとても綺麗な日本語で話をします。パラオは太平洋戦争終結までの30年間、日本の統治下にあり、その時代の影響が60年経った今でも驚くほどしっかりと現在のパラオに残っているのです。一般には綺麗な海で知られているパラオですがその魅力はそれに留まらないと、今回パラオの歴史を知る面で強くそう感じました。

最近の博物館での活動の一環とし



↑博物館敷地内にあるバイ（伝統的集会場）前で、現地の学生ボランティアと。

て、上記したような日本時代を経験したご年配の方たちを取材し、今年の9月に開かれる博物館創立50周年記念展覧会の為の歴史資料を収集するといった作業をしています。彼らが日本時代に通った学校で受けた教育がどのようなものだったのか、「南洋の東京」と呼ばれた当時の美しいコロール（パラオの首都で自分の住んでいる町です）の町並みを写真やジオラマを使いどのように再現するかなど、取材したことを活かして見る人に分かり易い展示が出来るようにと考えています。日本人として、こんなにもパラオを身近に感じながら学んでいける機会を得られたことを嬉しく受け止めます。そして何よりも、インタビュー等に答えてくださったり、資料を提供してくださるパラオ人の方たちの暖かいお心、博物館のスタッフからの自分のこの仕事に対する信頼などには、いつも感動させられてばかりです。

文化財保護を含む教育・文化の分野は明確な成果を残していくのが難しいとよく聞きますが、このように「展示」という形を残さなければならぬ仕事に逆に経験の不足からプレッシャーを感じる時もあります。時々、自分の持っている能力よ

りもやる気のほうが先行して空回りしてしまうこともあります。海外での2年間の活動で、何かをしっかりと残していくというのはどんな職種にしる大変なことだなあと実感します。これからもこのパラオでの恵まれた環境を精一杯楽しんでいくつもりです。

『クロスロード』を読む

当会で購読をお勧めしている「クロスロード」は、青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティアの情報誌です。

途上国の国や人づくりに汗を流してチャレンジする国際ボランティアの活動が生き生きと伝わってきて、ニュースでは報道されない世界各地・地球の隅々の「旬」を知ることができます。

ジャーナリスト平野次郎氏の「世界の今を読む」・片倉とも子氏の「イスラームのいろはうた」など、深い洞察と新鮮な視点からの連載記事も充実しています。

孤独な道がまじわり、絡み合う、つまり対話と行動というイメージにも通じることからCrossroad（十字路、交差点）と名付けられたこの情報誌は、「地球家族」必読ですね！

当会ホームページが正式公開！

<http://www.chikyukazoku.org/>

県内から派遣されたボランティアの活躍や、帰国したOG・OBの活動を紹介し、皆さんからの激励の声を現地に届ける情報の架け橋、交流広場を目指します。

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 Vol.2

平成17年5月28日発行（第2号） 発行人／酒井忠久

発行／〒999-7725 山形県余目町沢新田151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

Tel&Fax) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.org Website) <http://www.chikyukazoku.org/>

■協力隊を支援する『やまがた地球家族の会』入会のご案内

*会費(1口):個人会員=3000円/家族会員=1000円(個人会員の家族)/学生会員=1000円/団体会員=10000円(企業及び団体)

*会員特典: JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える! 「国際ボランティアマガジン 月刊『クロスロード』」を、年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。